

学 校 研 究 課 題

外国語の基本的な表現を用いて、思いや考えを伝える児童の育成 ～ 音声から文字へ、4技能の系統的な指導を通して ～

低学年・・・歌や絵本を通して英語の音声に慣れ親しみ、英語を聞いたり話したりすることを楽しむ児童。

中学年・・・英語の音声や表現に慣れ親しみながら、英語を聞いたり話したりしようとする児童。

高学年・・・英語の音声や表現に慣れ親しみながら、進んで自分の思いや考えを伝えることができ、英語を読むこと、書くことに意欲的な児童。

○本校の考える 外国語の基本的な表現とは

「Hi friends」に示された、単元で身に付ける基本的な表現のことである。

例 5年生 Lesson9

What would you like?
I'd like ○○。



○本校の考える 思いや考えを伝える児童とは

上記に示した基本的な表現を用いて、積極的に指導者や友達とコミュニケーションを図る児童である。



○本校の考える 音声から文字へとは

英語の音声(聞く)を基盤として、他の3技能(話す 読む 書く)につなげていくことを意味する。



○本校の考える 4技能の系統的な指導 とは

聞く→話す→読む→書くという第二言語習得の観点から、音声を聞くことを出発点として他の3技能を系統的に身に付けていくことを意味する。また、「聞く」と「文字」を同時にインプット(耳にする 文字を提示する)ことを行いながら4技能の系統的な指導を目指す。



熊谷市の教育 「学力日本一」を目指す授業改善に向けて

小学校3年～6年生の外国語活動における
モジュールシステム(本校全学年)の導入

単位時間を短く設定(本校9分)し指導の回数を増やす。

毎日、外国語(本校年間175モジュール→35時間分)に触れる

○研究の仮説、手立てについて

【仮説1】(聞く・話す)

歌や絵本を通して英語の音声に慣れ親しむ活動や、外国語で自分の思いを伝える楽しさを
実感できる活動を取り入れることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が高ま
り、進んで思いや考えを伝えられる児童が育成できるであろう。

- 手立て①低学年から歌を歌う、絵本を読み聞かせるなどの英語インプット量の確保
②中・高学年でもインプット量を確保し、英語で聞きたくなる、話したくなる活動の仕
掛けづくり
③「聞く・話す」能力や情意面を測る、事前事後テストの実施

【仮説2】(読む・書く)

音声を大切にしたい外国語活動の1時間ごとの指導過程を確立し、活動場面を増やせば、読み
たい、書きたいという意欲が高まり、思いや考えを伝える児童を育成できるであろう。

- 手立て①1時間ごとの指導過程の確立
②外国語の基本的な表現をたっぴり聞く、そしてその文字を読む・書く活動の充実
③「読む・書く」能力や情意面を測る、事前事後テストの実施

◇「授業研究部」の主な取組内容

- ①1時間ごとの指導過程の確立(授業改善)
- ②年間指導計画・モジュールシステム(本校Eタイム)計画の作成
- ③校内授業研究会(年2回)の実施
- ④音声から文字へのつなげ方の考案

◇「環境調査部」の主な取組内容

- ①事前事後テスト、実態調査の集計・考察
- ②教材の開発・整備
- ③Eルームの整備
- ④校内掲示の充実

